

令和6年度 市川町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

- ・認知症啓発
- ・認知症個別相談対応
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワーク構築
- ・認知症対応力向上のための支援
（認知症カフェ、家族会、サポーター養成講座）
- ・相談支援体制構築（認知症初期集中支援事業他）

報告者氏名： 岡本 舞

市川町 認知症施策全体図

○認知症対策の推進

◎施策の展開方向

①普及・啓発活動の推進…一般住民をはじめ認知症の正しい知識の普及啓発

②相談体制の充実…本人の状態に応じた適切な支援を行えるような体制整備

③認知症支援サービスの充実

- ・介護者への支援…家族会を開催し情報交換を行い、日頃の悩みや不安を解消
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの構築…行方不明になる可能性のある方に事前登録して、日頃から地域で見守り、行方不明になった際にすみやかに発見活動を開始
- ・ボランティアの育成…認知症サポーター養成講座の実施、やすらぎボランティアを派遣し、家族の介護疲れをやわらげる一助として支援

④認知症の予防対策の推進

- ・認知症予防を目的としたプログラムの推進…予防を目的にしたプログラムの導入を検討し、認知症を推定させない工夫を図る
- ・認知症地域支援推進員の配置…地域の支援機関をつなぐ連携支援や認知症の人やその家族を支援する相談業務を行う
- ・認知症初期集中支援チームの設置…認知症の人やその家族に早期に関わるチームを配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発について

○事業概要

- ・市川町では各地区、地域主体で民生委員、ボランティアなどを中心に月に一回つどいのあるところがある。そこでは茶話会、レクレーションなどが行われており、その場で例年要望があった地域に認知症の正しい理解を広めるための普及啓発を行っている。

○令和6年度の啓発

- ・以前から啓発活動を行っているが、令和6年度は全地区を対象に啓発活動を行った。都合が合わない地区もあったが、35地区中23地区375名の方に啓発を行うことができた。
- ・啓発内容としては県の認知症チェックシートを用いて行っている。チェックシートを地域の方に行っていただき、日頃の様子を自身で把握していただき、認知症の症状もお伝えした。また、認知症傾向にある方の把握も行った。予防の方法の一つとして、つどいの場が『社会参加』としてある事を伝え、会の参加を継続してもらうよう促している。他、適度な運動やバランスの良い食事を摂ることの必要性や、町独自の事業についても伝えている。
- ・認知症は誰もがなりえる病気で、病気を理解することが支援につながることをお伝えしている。

• 最後に・・・

毎年、認知症の啓発活動を行っているが、年々地域の方の関心や理解も高まっていると感じられた。しかし、集いの場は比較的、活動的な方が参加されている傾向にあり、認知傾向にある方の把握は十分にできなかった。その分、すでに介護保険サービスを利用している方や病院受診につながっている方が大半であった。また、家族の支援はもちろんのこと、民生委員さんや福祉委員さんの見守りや支援で生活されている方がおられた。人口規模が少ない地域ならではの協力体制があるのではないかと感じられた。

今年度も引き続き、昨年度啓発活動がでなかった地区を中心に行う予定にしている。認知症の啓発や支援だけでなく、その地区の特色をつかみ今後の支援に活かしていきたい。